

福 井 県 医 師 会

だより

第686号 平成30年(2018)8月

第97回 福井県医学会総会 特集



医学会会場にて

【左】 大中正光福井県医師会長

【中】 坂井健志坂井地区医師会長

【右】 腰地孝昭福井大学医師会長

醫 縫 録

院長就任のご挨拶

福井赤十字病院長 高木 治 樹



平成30年4月1日付けで、福井赤十字病院の第7代目院長を拜命致しました。福井県医師会の皆様にはいつもお世話になり感謝致しております。皆様にこの誌面をお借りして院長就任のご挨拶を申し上げます。

まずは、自己紹介をさせていただきます。私は、越前（旧武生）市生まれですが、中学校は福井市にJR通学をしていました。山本武生医師会会長、池端県医師会副会長が当時の通学仲間でした。高校は県外に出ていましたが、昭和47年に京都大学医学部に入学後、学生時代には福井赤十字病院や公立小浜病院で夏期臨床実習をさせて頂き、福井との繋がりを持ち続けていました。昭和53年に大学を卒業し、同時に京都大学整形外科に入局しました。平成2年に京都大学医学博士を取得後、福井赤十字病院に整形外科部長として帰福致しました。平成18年からは京都大学臨床教授を併任し、平成23年に副院長を拜命致しました。副院長を7年勤め、現在に至っています。また、副院長在任中に、医師会では県医師会の代議員、市医師会の理事を務めさせて頂き、大変勉強させて頂きました。

前置きが長くなりましたが、院長就任を機会に福井赤十字病院の歴史を振り返ってみます。当院は、大正14年に日本赤十字社福井支部病院として開院し、昭和18年に福井赤十字病院と改称、平成27年に創立90周年を迎えました。昨今の医療情勢は、少子高齢化を受けて大変厳しい環境となっています。そのような中で、赤十字病院の使命でもある高度専門医療、地域医療、救急医療、災害救護医療に対して、地域のニーズに応じた医療体制の充実のため、平成16年に本館を新築し、平成27年には創立90周年に併せて、先進中央棟を竣工しました。それに伴い、緩和ケア病棟を新設、外来化学療法室を移設拡張、高精度放射線治療装置「Vero4DRT」及び手術支援ロボット「ダヴィンチXi」を導入し、地域がん診療拠点病院として総合的ながん診療体制を整えました。また、院内

センター化構想に基づき、内科系、外科系が協働する体制をとっており、7つのセンターを軸に患者さんの体と心に優しい医療を提供しています。

そして現在、来るべき超高齢化に対応するために、医療制度の大きな変革がなされようとしています。従来の病院完結型の医療から患者さんが安全に安心して地域で生活でき、その医療が地域で完結する地域完結型の医療が求められています。当院は今年度からスタートする第7次福井県医療計画においても、5疾病5事業を担う急性期病院に位置づけられています。その医療計画に沿い、昨年9月に策定した団塊の世代が後期高齢者になる2025年に向けた当院の病院改革プランは、地域の基幹病院として、高度急性期及び急性期医療を提供しつつ、地域医療支援病院として、かかりつけ医との医療連携を更に深化し、看取りを含めた在宅医療を支援していくものです。今後はこのプランに従い、ロボット支援手術の適応拡大など、これまで行ってきた高度専門医療の充実をさらに図っていくとともに、理念である「県民が求める優れた医療」の実践と、「時代にマッチした医療の提供」により、地域の皆さんから信頼される病院を目標とします。また、入院前から退院後までシームレスに患者さんに寄り添って治療を行っていく体制を整えます。

最後に、当院がここまで発展する事ができたのは、各医師会、連携医の先生方をはじめ、地域住民の皆さんや、地元の行政機関など多くの方々のおかげです。これからも職員一丸となって、皆様の期待に応える病院を目指して参りたいと考えておりますので、医師会の先生方には尚一層のご支援の程よろしくお願い申し上げます。